

スタート

くらべっこ横行

(狭小な価値基準社会)

何かがおかしい？
保育がマンネリ？

「ゆうぎ会」の持ち方はじめ、
保育全般に自信がもてない

教師主導のプログラムではなく
子どもたちがやってみたいプログラ
ムに取り組む 突破口となるか

「ゆうぎ会」名称改め
「発表会」とする ※1

小手先感だけ

言葉遊び段階

思いと使う言葉が浮遊している

納得いかないモヤモヤ
が尚もつづく

扉が開かれた！！！！

頭では 共感。納得。
大いなる憧れ

馴染みのない言葉に困惑
職員の共通理解にばらつき

しかし
まったなし!! 断行

子どもに時間・空間を返す

現場の新知見 90分
子どものあそびが替わる。

子どもを 子どもたちを
「人」「人たち」と
表現する園に出あう

覚醒！

まず 真似る

**職員必ずお手本園の
公開保育に参加**

全体活動の必要性、環境の構成
が理解！？

現場が穏やかになってきた

本来の子どもの姿に 出あう

改めて はじめまして！

そして、わたし自身=保育者に

「失敗」の二文字封印！
はじめてのことに”失敗”
はなし
”気づき” あるのみ

『気づき』に問題、課題 続出

気づきは 子どもから
同僚から
自分から
保護者から

ひとつ ひとつ 話し合い
実践
安心材料の蓄積

脚下の整理整頓
今でいう断捨離

必要な もの こと が
はっきり。
見通せる

納得ずくの名称変更
「発表会」から「表現の集い」※2

『表現の集い』 冊子のことば

自分の中にある「何だかわからないもの」を何かの形にして外に出すこと。よくわからないものを外に出すのは、自分を把握するためである。 — 自己表現 —

＜表現＞は、まさに人の営みそのもの。

- ・人の誕生は表現の誕生ともいえるでしょう。
- ・ひとりとして同じ表現がないということにもなるでしょう。

愛おしいかぎりの今を生きる子どもたちです。
お楽しみください。

子どもと共に 表現がテーマの園です

躊躇なく ひらめき を試行

思考 選択 決断 実行

子どもも 保育者も
ともに 試行錯誤

※3

※4 準備中

信頼

唯一 それは

子ども

毎日が
はじめて

意識改革

これからの課題

- 子どもの権利
- ジェンダー
- 幼小連携

新課題

キーコンピテンシー

